

Speech Clinic

科目責任者 坂本洋子
学年・学期 1学年・1学期

I. 前 文

英語を適切に話すことは、将来医師になり、英語で学会発表や留学をする際に重要である。そこで本講義では、英語の発音を体系的に学び、身に付けることにより、自信を持って英語を話せるようにすることを目的とする。また英語の発音を身に付けることは、英語のリスニング力の向上にも有益であると考えられる。

II. 担当教員

坂本洋子

III. 一般学習目標

英語の発音を身に付けることを通して、英語におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。

IV. 学修の到達目標

- 1) 音声器官と発音方法を体系的に学習する。
- 2) 英語の音素の聞き取りが正確にできる。
- 3) 英語の単語や文を適切に発音できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	20	水	4	オリエンテーション, Speech Organs and Speech Sounds	坂本洋子	4
2		27	水	4	[p]-[b], [t]-[d]		4
3	5	11	水	4	[k]-[g], [f]-[v]		4
4		18	水	4	[θ]-[ð], [s]-[z]		4
5	6	1	水	4	[ʃ]-[ʒ], [tʃ]-[dʒ]		4
6		8	水	4	[h], [m]-[n]-[ŋ]		4
7		15	水	4	[r]-[l], [j]-[w]-[hw], まとめ		4

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

ミニテスト (90%), 出席状況・態度 (10%) によって総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・A V資料

教科書: 津田塾大学英文学科編『アメリカ英語の発音教本』研究社, 2012年

その他の関連資料は授業時に配布する。

構音を確認するために、鏡を持参すること。

VIII. 質問への対応方法

原則として随時受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医 学 知 識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨 床 能 力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能 動 的 学 修 能 力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

テストについては、その都度授業時にフィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載

XII. コアカリ記号・番号

A-7-2